

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月25日

事業所名 しいのみ学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15	0	活動中子ども同士の接触の可能性があるなど、子どもプラス大人では広さが十分でないと感じる時がある。	現園舎は建築後45年を経過しており老朽化は否めませんが子どもの動線や物の配置等に留意していきます。
	2	職員の配置数は適切である	15	0	職員の配置は十分であると思う。休みの職員がいる場合他クラスからの補助等で大変な職員はいると思う。/各クラスあと一名の増員があると尚よい	職員配置等については今後も可能な限り努力します
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13	2	自分の荷物を置くスペースやおもちゃの置き場など変わることがないので分かりやすいと思う。トイレは広さ、数の問題で少し使いにくいと感じる。/数人ずつ排泄に行く、順番に並ぶなどの工夫はしていますが、排泄が他クラスと重なった場合などトイレの数がもう少しあって欲しいと感じることがあります。/トイレ入り口の段差をなくした方がよい	現園舎は建築後45年を経過しており老朽化は否めませんが子どもの動線や物の配置等に留意していきます。トイレ入り口については、湿式トイレのため段差をなくすことは適切でないと考えています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	2	行事が近くなると特に、作り物などに力を注ぐため消毒作業が十分に出来ないことがあります。/衛生面での改善が必要	さらに消毒作業の徹底を図ります。計画的に施設設備の改修等を進めていきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	6	行事等の振り返りは保護者の意見も取り入れて次の活動へ繋げていると思う。/ミーティングなどで目標についての共有はありますが、職員同士で振り返る機会が少ないと思います。/振り返りが無いのは改善すべき	確かにPDは、かなりおこなっていますが、終了後の職員間でのC(評価)A(改善)の共通理解を得る機会は少ないので改善していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	4		今後も、公表を行い改善に活用していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15	0		今後も、公表を行い改善に活用していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	15	0	分からない	現時点では実施の予定はありません。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15	0	定期的に研修が行われている。	今後も園内外の充実した研修を継続していきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	15	0	個人面談では、2人以上の職員が同席しているので主観的にならず、話を聞けるのではないかと思う。	今後も継続していきます。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	2		今後も必要に応じて標準化されたツールも活用していきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	15	0	地域支援はコロナ禍もあり特別なことはないものの、散歩時などに子どもたちが挨拶や会話をする姿がある。自然と交流できる環境は良いと思う。	児童発達支援ガイドラインに関する共通理解をさらに深めていきます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	15	0	共通理解、支援の統一が足りない部分があるためその子に関わる職員には計画や、目標を伝え方針を同じにする必要があると感じる。	支援の実際に関する定例的な研修や打ち合わせ等を継続し、児童支援に関する共通理解を深めていきます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	10	5	そうは思わない。/直前や事後に知る事が多く共有が難しいです。	児童発達支援管理責任者を中心に職員間での共通理解を図ります。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	5	同じことを繰り返す練習により出来るようになったこと、それを喜び合うという良い面もありますが、同じ活動の中に数分間だけでも自由遊びを挟むなど少しリラックスできる活動があると良いと思いました。/昔からの活動プログラムに変化がない	個に応じた支援をもとに子供たちが多様な体験を行えるよう工夫していきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14	1		今後も継続していきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	4	打ち合わせをする機会や時間が十分に取れていないです。支援内容の確認を朝した後に内容が変わっていて知らないことがあるなどありました。	職員の勤務形態にかかわらず全職員が確認しあうことのできる機会を増やします。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	6		職員の勤務形態にかかわらず全職員が確認しあうことのできる機会を増やします。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	4		今後も保護者連絡を兼ねた活動記録を作成し支援につなげていきます。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	1		今後も保護者個人面談やクラス懇談等を定期的な見直しを継続します。	
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	1		今後も、児発管、相談支援専門員等により対応していきます。	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14	1		今後も福岡市事業団等との連携を行っています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0		
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0		
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	3	分からない。	今後も、出身園等との情報交換を行っていきます。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	2	情報共有をする時には担任が同席したり、質問に答えられる環境があると良いと思う。 子どもたちが小学校に上がる時に、園でどんなことをして、できるようにして、課題はここだと日々接している先生目から感じることを伝えられると、園で身についたことが引き継がれていくと思う。	今後も、クラス主任や児発管等により就学前の引き継ぎと共に就学後に各学校に伺って状況を確認していきます。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	4		今後も児発管や相談支援員、園長を中心に連携していきます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	11		状況に応じて交流の機会を増やしていきます。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	14	0		園長、相談支援専門員を中心に参加していきます。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	2	連絡帳や、バスで伝え切れないことなどは電話でも確認ができていますと思う。 普段から家での様子や困り事を聞けるので、園での活動中の支援にも活きると思う。	今後も日々の連絡帳や個別連絡、個人面談等の機会を通して共通理解に努めていきます。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	15	保護者連絡会が定期的に行われている	今後も長事や排泄等の日常生活動作に関する研修会や家庭での支援、介助に関する相談を実施していきます。
	保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15	0	
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		15	0		今後も保護者との個別面談を中心に、「支援計画書」をもとに十分な懇話を重ねて説明と同意を得ていきます。
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		15	0	必要な時には電話だけでなく面談をしていると思う。	今後も保護者からの相談等に即時的に対応していきます。
35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		15	0	保護者連絡会が定期的に行われている。	保護者の負担を軽減することにも考慮して連携を支援していきます。
36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		15	0		今後も保護者からの相談等に即時的に対応していきます。
37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		15	0		今後も毎月の会報等で発信していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	15	0		今後も個人情報の管理に十分に努めます。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15	0	行事前や、時間に追われている時に子どもの意見や気持ちが見落とされる可能性はある。	相互に分かり合えるよう多様な場面や方法で意思の疎通を図っていきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	8		今後の検討課題の一つです。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	1		マニュアル作成済みです。訓練を今後も継続して行っています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	15	0	避難訓練が定期的に行われている。年に1、2回は抜き打ちの訓練も必要だと思う。避難訓練のために、今からベルが鳴るので教室にいるように等子どもの行動を制限することは少し違和感を感じる。	子ども達の心理的安定を心掛けるながら計画的に訓練を行っていきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	1	連絡があった場合には周知できているが、先週予防接種してみたいということがあった。	各家庭から情報をいただいております。今後も継続してまいります。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15	0		入園時に詳細な情報を把握するとともに毎年、必要な事項の共通理解を図っています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	7	どこにあるか知らないこと細か	今後も事故報告書を作成し情報共有を行っていきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15	0	研修だけでなく誰でも、どこでも起こりうる事を再認識して、この園ではこういう危険があるのではないかという視点での話し合いがあると、お互い気をつけ合えるのではないかと思う。	今後も毎月、職員研修・報告を行っていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14	1		必要な事項については保護者と職員間で共通理解を深めています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。